

文学理論	通年 4 単位	
文学理論の歴史	辻 吉祥 (つじ よしひろ)	
<p>【ねらい】 文学を読むことの歴史は、同時に読む主体の歴史です。文学理論、批評理論について学ぶことは、読む主体が、自分自身の背後に回り込む技術を習得すること、と考えればよいでしょう。そんなことができるだろうか——。そうできれば、読むことが、飛躍的に自在になります。</p> <p>【授業計画：前期】 第1回 導入 第2回 V・シクロフスキー「手法としての芸術」——「異化」とは何か 第3回 B・プレヒト「実験的演劇について」——「異化効果」 第4回 M・バフチン——フォルマリズム批判 第5回 E・サイード『オリエンタリズム』——異者の眼差し 第6回 学生による発表とディスカッション1 第7回 学生による発表とディスカッション2 第8回 学生による発表とディスカッション3 第9回 学生による発表とディスカッション4 第10回 学生による発表とディスカッション5 第11回 学生による発表とディスカッション6 第12回 学生による発表とディスカッション7 第13回 学生による発表とディスカッション8 第14回 学生による発表とディスカッション9 第15回 まとめ</p> <p>【授業計画：後期】 第1回 前期の学習内容の確認と後期の導入 第2回 ロラン・バルト——作者の死1 第3回 ロラン・バルト——作者の死2 第4回 ジェンダー批評1 第5回 ジェンダー批評2 第6回 学生による発表とディスカッション1 第7回 学生による発表とディスカッション2 第8回 学生による発表とディスカッション3 第9回 学生による発表とディスカッション4 第10回 学生による発表とディスカッション5 第11回 学生による発表とディスカッション6 第12回 学生による発表とディスカッション7 第13回 学生による発表とディスカッション8 第14回 学生による発表とディスカッション9 第15回 まとめ</p> <p>【進め方】 自らの読みを見つめ直すための批評理論は非常に多くあります。ここではそのうち主要なものを丁寧に読み、他の理論にもできるだけ触れていくようにします。なかでもジェンダーの視点は最も重要です。他の授業内容にもつなげて理解を発展させることが大切です。後半は実際に作品の中でそれらがどのように駆使されているのか研究し、発表します。</p> <p>【テキスト】 プリントで配布します。(丁寧に説明しますが英語も使用します)</p> <p>【参考文献】 もし買うなら、David Lodge and Nigel Wood eds., <i>Modern Criticism and Theory : A Reader</i> 3rd ed. (Pearson Longman, 2008) は一生使えます。但し旧版のほうが便利。</p> <p>【評価方法】 レポート(前期・後期計2回) 50%、出席30%、発表20%</p>		

国文学特講Ⅰ		通年 4 単位	
日本近代文学とジェンダー		鈴木 直子 (すずき なおこ)	
ねらい	ジェンダー・セクシュアリティに関する概念・歴史・理論などについて、基本的な文献をいくつか読みながら、ジェンダー論の基礎を学びます。日本近代文学への新たな興味関心を開けるよう、身体・少女・モダンガール・恋愛・娼婦など、さまざまなトピックについても幅広く学びます。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクダクシヨウ 第2回 テキスト講読 文学とジェンダー 第3回 テキスト講読 女性身体とジェンダー 第4回 テキスト講読 少女性とジェンダー 第5回 テキスト講読 母性政策とジェンダー 第6回 テキスト講読 民族・国家とジェンダー 第7回 テキスト講読 ファンタジーとジェンダー 第8回 テキスト講読 異類とジェンダー 第9回 テキスト講読 ことばとジェンダー 第10回 テキスト講読 売買春とジェンダー 第11回 テキスト講読 セクシュアリティとジェンダー 第12回 テキスト講読 平和とジェンダー 第13回 テキスト講読 スポーツとジェンダー 第14回 まとめ1 第15回 まとめ2	【後期】 第1回 後期INTROクダクシヨウ 第2回 オリジナル発表・ディスカッション1 第3回 オリジナル発表・ディスカッション2 第4回 オリジナル発表・ディスカッション3 第5回 オリジナル発表・ディスカッション4 第6回 オリジナル発表・ディスカッション5 第7回 オリジナル発表・ディスカッション6 第8回 オリジナル発表・ディスカッション7 第9回 オリジナル発表・ディスカッション8 第10回 オリジナル発表・ディスカッション9 第11回 オリジナル発表・ディスカッション10 第12回 オリジナル発表・ディスカッション11 第13回 オリジナル発表・ディスカッション12 第14回 まとめ1 第15回 まとめ2	
進め方	参加者各自の問題関心に沿ったテーマとテキストを選び、文献を読んでディスカッションします。後期はそれぞれのオリジナルな問題関心から自由に選んだテーマについて調査考察し、発表します。積極的にディスカッションに参加するよう心がけてください。		
テキスト	その都度配布します。	参考文献	ベル・フックス『フェミニズムはみんなのもの』、中山和子他編『ジェンダーの日本近代文学』、岩渕宏子他編『ジェンダーで読む愛・性・家族』
評価方法	出席・授業参加:50% レポート:50%		

国文学特講Ⅱ		通年 4 単位	
絵と音楽の源氏物語		上原 作和 (うえはら さくかず)	
ねらい	千年の間読み継がれた『源氏物語』の次なる千年に向けて、物語通読のための課題を考えて行きます。前期は鎌倉から近代現代にかけての『源氏物語』享受の様相を考えます。後期は《光源氏の物語》《薫の物語》の精緻な分析を通して、〈音楽文化〉や〈書芸〉〈薫香〉などの文化史背景から物語の世界を理解することを目標とします。		
授業計画	【前期】 第1回 入門『源氏物語』① 第2回 入門『源氏物語』② 第3回 入門『源氏物語』③ 第4回 院政期の『源氏物語』と『源氏物語絵巻』 第5回 『源氏物語絵巻』の成立 第6回 『源氏物語絵巻』の流転 第7回 河内本・青表紙本『源氏物語』の成立 第8回 撰関家伝来本『源氏物語』の成立 第9回 幕末の『源氏物語絵巻』の流転 第10回 昭和の『源氏物語絵巻』の流転 第11回 『源氏物語絵巻』詞書の研究① 第12回 『源氏物語絵巻』詞書の研究② 第13回 『源氏物語絵巻』詞書の研究③ 第14回 『源氏物語絵巻』詞書の研究④ 第15回 まとめ	【後期】 第1回 光源氏の世界① 第2回 光源氏の世界② 第3回 光源氏の世界③ 第4回 光源氏の世界④ 第5回 『源氏物語』と音楽① 第6回 『源氏物語』と音楽② 第7回 光源氏の世界⑤ 第8回 光源氏の世界⑥ 第9回 『源氏物語』とかな文化史① 第10回 『源氏物語』とかな文化史② 第11回 薫の世界① 第12回 薫の世界② 第13回 『源氏物語』と薫香 第14回 薫の世界③ 第15回 まとめ	
進め方	○基本的に講義形式で進めます。ただし、一方通行にならぬよう、質問用紙を配布して、みなさんの疑問点や興味を持ったことを次回の講義に反映させる展開を考えています。		
テキスト	上原作和・陣野英則 校注訳、『光源氏と薫の世界 一冊で読む源氏物語/訳注付』 武蔵野書院	参考文献	物語学の森 http://www.asahi-net.or.jp/~tu3s-uehr を適宜参照のこと。 上原作和編集『人物で読む源氏物語』 勉誠出版
評価方法	出席:30% 参加態度:10% レポート等:60%		

国文学特講Ⅲ		通年 4 単位	
歌舞伎・戯作と江戸の音曲		鹿倉 秀典（しかくら ひでのり）	
ねらい	江戸の演劇（人形浄瑠璃・歌舞伎）が当時の「戯作」を背後から支えていた事は、改めて指摘すべき必要のない事実です。しかし音曲（歌謡詞章）はどうでしょう。演劇・戯作をにらみながら「音曲」を「ことば」として捉え、これが当時の「文芸」でもあったという事実を確認して行きます。		
授業計画	【前期】 第1回 江戸時代音曲の流れ I 第2回 江戸時代音曲の流れ II 第3回 箏曲歌謡について 第4回 生田流と山田流の歌謡の特徴 第5回 三味線歌謡について I 第6回 三味線歌謡について II 第7回 浄瑠璃 I 第8回 浄瑠璃 II 第9回 語り物と唄い物について 第10回 芝居での歌謡 第11回 歌舞伎の「小うた」 第12回 江戸長唄（初期） 第13回 江戸浄瑠璃（半太夫・河東など） 第14回 江戸豊後浄瑠璃（常磐津・清元など） 第15回 歌舞伎の伴奏としての歌謡について	【後期】 第1回 労働唄（民謡）について 第2回 歌謡のうたわれる場（芝居・労働・宴席） 第3回 江戸端唄と上方端唄 第4回 再び「三味線」について 第5回 江戸長唄と民謡 第6回 江戸長唄（中期） 第7回 山田流箏曲歌謡と河東節 第8回 うた澤の発生 第9回 豊後浄瑠璃とうた澤 第10回 江戸長唄と宴席歌 第11回 江戸長唄（後期） 第12回 現代における邦楽歌謡 I 第13回 現代における邦楽歌謡 II 第14回 まとめ 音楽教育と音曲 第15回 テストあるいはレポート	
進め方	当時の「三味線歌謡」や「箏曲歌謡」を「ことば」として、意味を押さえながら聴くことから入ります。そうして、ここに様々な「先行歌謡」（うた）がどのように用いられていたのかを探ります。また、演奏された「場所」や「うたの手」にも言及し、巷間での流行現象の分析も行う予定です。		
テキスト	『近世文学選 芸能編』（和泉書院）¥1750（テキストは、便覧として用い、作品はその都度プリントにて提示します）	参考文献	『徳川文芸類聚』9・10巻など
評価方法	出席:30% 夏季レポート:30% 最終レポート:40%		

国文学演習Ⅰ		通年 4 単位	
名所図会の発句を読む		高野 奈未（たかの なみ）	
ねらい	名所図会とは、名所に関する歴史、文芸、見どころを説明する江戸時代に出版された絵入りガイドブックです。絵に書かれた江戸時代の発句（今の俳句）を中心に名所図会を読んでいくことによって、発句を解釈できるようになり、名所図会の特徴を理解することを目指します。作中に描かれている江戸時代の文化、旅の目的や方法についても併せて学び		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス（扱う名所の相談、担当者の決定など） 第2回 名所図会について 第3回 発句の解釈方法について 第4回 『都名所図会』 祇園（京都） 第5回 『都名所図会』 嶋原・嵐山（京都） 第6回 『都名所図会』 宇治・鞍馬（京都） 第7回 『東海道名所図会』 逢坂山・唐崎（滋賀） 第8回 『東海道名所図会』 石山・幻住庵旧跡（滋賀） 第9回 『東海道名所図会』 鈴鹿・四日市（三重） 第10回 『東海道名所図会』 桑名・八橋（三重） 第11回 『東海道名所図会』 岡崎・豊川（愛知） 第12回 『東海道名所図会』 佐夜中山・菊川（静岡） 第13回 『東海道名所図会』 清見崎・富士山（静岡） 第14回 『東海道名所図会』 川崎・玉川（神奈川・東京） 第15回 前期のまとめとレポートの説明	【後期】 第1回 『江戸名所図会』 両国橋・元吉原（東京、以下同） 第2回 『江戸名所図会』 山王祭・三ツ橋 第3回 『江戸名所図会』 佃島・木挽町 第4回 『江戸名所図会』 泉岳寺・品川 第5回 『江戸名所図会』 蒲田・杉田村 第6回 『江戸名所図会』 富士見茶屋・四谷 第7回 『江戸名所図会』 小金井橋・雑司谷 第8回 『江戸名所図会』 神田明神・湯島 第9回 『江戸名所図会』 寛永寺・蛭沢 第10回 『江戸名所図会』 飛鳥山・豊島 第11回 『江戸名所図会』 浅草寺・新吉原 第12回 『江戸名所図会』 富岡八幡宮・深川芭蕉庵 第13回 『江戸名所図会』 亀戸天満宮・三圃稲荷社 第14回 『江戸名所図会』 隅田川 第15回 後期のまとめとレポートの説明	
進め方	はじめの数回の授業で名所図会の概要・発句の解釈方法を説明したのち、担当者を決め、発句の解釈を口頭発表してもらいます。適宜、名所図会の発句以外の記事、各名所を題材とする川柳・紀行などを解説します。なお、授業計画の地名は目安であり、扱う名所は受講者との相談で決めます。口頭発表をもとにレポート（前期末と後期末）の提出を求め		
テキスト	プリントを配布します。	参考文献	『新訂 都名所図会』『新訂 江戸名所図会』（ちくま学芸文庫）、『新訂 東海道名所図会』（ペリかん社）
評価方法	レポート:40% 授業内発表:40% 出席状況・質疑応答:20%		

国文学演習Ⅱ		通年 4 単位
栄花物語を読む		中村 康夫 (なかむら やすお)
ねらい	文学作品の表現は、様々な資料に根拠がある場合が多く、専門の注釈書類では詳細にその資料を掲げている。この演習では、一つの作品を読み進めると同時に、その作品の底辺に広がる資料群を、図書館の本を使ってできるだけ具体的に知ることをねらう。その知見の広がりは、さまざまな“文学”の可能性について視野を広げることになると思う。	
授業計画	【前期】 第1回 崩し字読解演習 第2回 崩し字読解演習 第3回 崩し字読解演習 第4回 崩し字読解演習 第5回 崩し字読解演習 第6回 崩し字読解演習 第7回 崩し字読解演習 第8回 崩し字読解演習 第9回 崩し字読解演習 第10回 崩し字読解演習 第11回 崩し字読解演習 第12回 崩し字読解演習 第13回 『栄花物語』絵入版本演習 第14回 『栄花物語』絵入版本演習 第15回 『栄花物語』絵入版本演習	【後期】 第1回 崩し字読解演習 第2回 崩し字読解演習 第3回 崩し字読解演習 第4回 『栄花物語』絵入版本演習 第5回 『栄花物語』絵入版本演習 第6回 『栄花物語』絵入版本演習 第7回 『栄花物語』絵入版本演習 第8回 『栄花物語』絵入版本演習 第9回 『栄花物語』絵入版本演習 第10回 『栄花物語』絵入版本演習 第11回 『栄花物語』絵入版本演習 第12回 『栄花物語』絵入版本演習 第13回 『栄花物語』絵入版本演習 第14回 『栄花物語』絵入版本演習 第15回 『栄花物語』絵入版本演習
進め方	初めは、版本の文字になれることが必要なので、資料調査よりも、文字の読解に重きを置いた進み方をする。慣れてきたところで、注釈書を決め、資料調査などにはいる。これは演習なので、毎時間担当者を決め、報告してもらう。史料は漢文のものが多く、必要に応じて漢文を読む学習も入れることがある。	
テキスト	架蔵の版本のコピーなど、手作りの資料を配付する。演習の当番に当たった人は、配付資料がかなりの多さになる場合が考えられるので、早めに取り組	参考文献 授業中に指示する。必要に応じて一緒に図書館に 出かけ、資料を探索する。
評価方法	崩し字演習(授業中):20% 栄花物語演習レポート:20% 出席:40% 発言等:20%	

国文学演習Ⅲ		通年 4 単位
村上春樹と戦後……The World According to Haruki Mrakami		今井 清人 (いまい きよと)
ねらい	“村上春樹”という屈折率で“戦後”を写してみようという試みです。殊に長編小説とその前テキストとなるものとの関係を見ていきます。	
授業計画	【前期】 第1回 1950年代① 第2回 1950年代② 第3回 1950年代③ 第4回 1950年代④ 第5回 1960年代① 第6回 1960年代② 第7回 1960年代③ 第8回 1960年代④ 第9回 1970年代① 第10回 1970年代② 第11回 1970年代③ 第12回 1970年代④ 第13回 研究発表① 第14回 研究発表② 第15回 研究発表③	【後期】 第1回 1980年代① 第2回 1980年代② 第3回 1980年代③ 第4回 1980年代④ 第5回 1990年代① 第6回 1990年代② 第7回 1990年代③ 第8回 1990年代④ 第9回 2000年代① 第10回 2000年代② 第11回 2000年代③ 第12回 2000年代④ 第13回 研究発表① 第14回 研究発表② 第15回 研究発表③
進め方	テキスト・資料をディスカッションしながら読んでいき、その後参加者各自が自由なテーマで発表します。	
テキスト	テキストは授業時に指示します。資料等は随時配布します。	参考文献 『村上春樹スタディーズ』若草書房ほか
評価方法	出席・授業参加度:80% レポート:20%	

国文学演習Ⅳ		通年 4 単位
近代文学の肉筆資料を読む		宗像 和重 (むなかた かずしげ)
ねらい	私たちは普段、活字のテキストで近代の文学作品を読んでいます。しかし、実際の原稿は筆や万年筆などで書かれ、また作家の手紙や日記、創作ノートなど、近代文学に関する肉筆の資料が数多くあります。この授業では、それらの資料を実際に読み進め、肉筆資料の面白さに触れるとともに、いわゆるくずし字に馴れ親しむ機会にしたいと思います。	
授業計画	【前期】 第1回 近代文学と肉筆資料 第2回 「変体仮名」に馴れる (1) 第3回 「変体仮名」に馴れる (2) 第4回 「変体仮名」に馴れる (3) 第5回 「変体仮名」に馴れる (4) 第6回 「変体仮名」に馴れる (5) 第7回 「旧字体」と「新字体」 (1) 第8回 「旧字体」と「新字体」 (2) 第9回 楷書・行書・草書 (1) 第10回 楷書・行書・草書 (2) 第11回 楷書・行書・草書 (3) 第12回 肉筆資料としての原稿 第13回 肉筆資料としての日記 第14回 肉筆資料としての手紙 第15回 前期のまとめ	【後期】 第1回 後期の授業予定について 第2回 肉筆資料の調査と報告 (1) 第3回 肉筆資料の調査と報告 (2) 第4回 肉筆資料の調査と報告 (3) 第5回 肉筆資料の調査と報告 (4) 第6回 肉筆資料の調査と報告 (5) 第7回 肉筆資料の調査と報告 (6) 第8回 近代作家の多彩な肉筆資料 (1) 第9回 近代作家の多彩な肉筆資料 (2) 第10回 近代作家の多彩な肉筆資料 (3) 第11回 近代作家の多彩な肉筆資料 (4) 第12回 近代作家の多彩な肉筆資料 (5) 第13回 近代作家の多彩な肉筆資料 (6) 第14回 肉筆と活字 第15回 授業のまとめ
進め方	最近では、いろいろな肉筆資料の写真版や複製が普及しています。授業ではそれらを使い、始めは読みやすいものから、原稿・手紙・日記・ノートなどを取り上げ、一緒に読み解いていきます。後期は、皆さんに関心のある肉筆資料の報告をしてもらうことも考えています。人数や授業効果を考えて、上記の各回の予定は、適宜変更することがあります。	
テキスト	授業中にプリントを配付する予定ですが、教室で説明します。	参考文献 授業中に随時紹介します。
評価方法	出席などの平常点:30% 後期の発表と質疑:30% 学年末レポート:40%	

国語学演習		通年 4 単位
日本語のあつかいかたを学ぶ—日本語入門—敬語、方言、語源、女性語と男性語、また若者ことば、流行語と死語、新語、俗語などなどへのアプローチ		岡崎 和夫 (おかざき かずお)
ねらい	古代の日本語から現代の日本語へのうつりかわりのみちすじを、具体的な史料・資料に基づいて体験的に学びながら、上記<敬語>以下参加学生の関心にあわせて、日本語を探求して行く方法をお話します。※第1回より研究室参集	
授業計画	【前期】 第1回 導入：1「おとうさん」という語は、いつ出来た？ 第2回 導入：2「おかあさん」という語は、いつ出来た？ 第3回 <めんどい>は、いつ出来た？ 第4回 日本語のあつかいかた (1) 第5回 日本語のあつかいかた (2) 第6回 日本語のあつかいかた (3) 第7回 日本語のあつかいかた (4) 第8回 日本語のあつかいかた (5) 第9回 日本語のあつかいかた (6) 第10回 日本語のあつかいかた (7) 第11回 日本語のあつかいかた (8) 第12回 日本語のあつかいかた (9) 第13回 日本語のあつかいかた (10) 第14回 日本語のあつかいかた (11) 第15回 総合	【後期】 第1回 日本語探求法 (1) 第2回 日本語探求法 (2) 第3回 日本語探求法 (3) 第4回 日本語探求法 (4) 第5回 日本語探求法 (5) 第6回 日本語探求法 (6) 第7回 日本語探求法 (7) 第8回 日本語探求法 (8) 第9回 日本語探求法 (9) 第10回 日本語探求法 (10) 第11回 方言研究による日本語史の構築 (1) 第12回 方言研究による日本語史の構築 (2) 第13回 方言研究による日本語史の構築 (3) 第14回 方言研究による日本語史の構築 (4) 第15回 総合
進め方	たとえば、皆さんがよく知っている<めんどい> (=めんどくさい) を現代の若者ことばだと思い込んでいる人はいますか。それは、残念ながら、大誤解です。そういう身近なところからスタートして、参加者の学的関心にあわせてテーマを選んで行きます。それによって、自己流を離れて日本語をあつかう方法を身につけて行きます。	
テキスト	第1回～第3回に、学生との対話の中で決定する。	参考文献 適宜、図書館資料を中心に指示。
評価方法	授業参加度:50% 授業貢献度:50%	

翻訳論		通年 4 単位	
日本文学の英訳や英米文学の英訳を原典と比較、鑑賞する		井原 真理子 (いはら まりこ)	
ねらい	皆さんは、今まで翻訳を通じて世界のさまざまな文学に親しんでいらしたと思います。さて、それらが「翻訳された作品なのだ」ということを意識したことはありませんか。この授業では、日本語では言い古された表現が英訳でかえってみずみずしく迫ってくるのを確認したり、英語の原典が持っている「微妙なニュアンス」について考えてみます。		
授業計画	【前期】 第1回 Introduction 第2回 翻訳の理論について 第3回 同上 第4回 俳句を読み、英訳と比較 第5回 同上 第6回 同上 第7回 同上 第8回 和歌を読み、英訳と比較 第9回 同上 第10回 同上 第11回 同上 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 前期小論文について	【後期】 第1回 小テスト（辞書持ち込み可） 第2回 英米文学の作品を読みます。（作品は未定です） 第3回 同上 第4回 同上 第5回 同上 第6回 上記作品の翻訳をいくつか比較します。 第7回 同上 第8回 同上 第9回 同上 第10回 学生による発表 第11回 同上 第12回 同上 第13回 上記小説の映画化作品をいくつか比較鑑賞 第14回 同上 後期小論文について 第15回 まとめ	
進め方	日英米のさまざまな文学作品を取り上げ、まず、原典をよく鑑賞し、その後に翻訳作品を読んで、その特徴を論じてゆきます。学生には、授業中文章を書いたり、発表をしたりと積極的な参加を期待します。		
テキスト	授業中に随時配布します。	参考文献	辞書は必ず持参しましょう。『プログレッシブ英和中辞典』（小学館）がお進めです。電子辞書にも搭載されている場合があります。探してみましょう。
評価方法	平常点:40% 学期末小論文:60%		

民俗学		通年 4 単位	
柳田国男『遠野物語』の世界		持田 叙子 (もちだ のぶこ)	
ねらい	今からちょうど百年前、1910年明治43年に刊行された『遠野物語』は、岩手県遠野地方の民譚を集めた本です。北国の森や山々、湖、川にまつわる話がまず印象的です。また、幽霊や妖怪、死後の世界の話、狐や蛇、鹿の話も多いです。それらを読み、日本人の死生観や動物観、少し昔の衣食住生活について学びます。		
授業計画	【前期】 第1回 『遠野物語』の成り立ちについて 第2回 遠野物語 一 遠野の山々 第3回 " " 一 ザシキワラシが出た！ 第4回 " " " " 第5回 " " 一 女性だけが仕える神、オシラサマ 第6回 " " " " 第7回 " " " " 第8回 " " 一 河童伝承 第9回 " " " " 第10回 " " " " 第11回 " " 一 人間と動物 第12回 " " " " 第13回 " " 一 一家の没落譚 第14回 " " 一 ふしぎな隠れ里 第15回 " " 一 山男・山女	【後期】 第1回 遠野物語 一 山男・山女 第2回 " " 一 雪女 第3回 " " 一 死後の世界 第4回 " " " " 第5回 " " " " 第6回 " " 一 昔話と日本人 第7回 " " " " 第8回 " " " " 第9回 " " " " 第10回 " " 一 大正月と小正月 第11回 " " " " 第12回 日本の年中行事 第13回 日本の年中行事 第14回 日本の年中行事 第15回 日本の年中行事	
進め方	『遠野物語』をまずしっかりと皆で読んでゆきます。講義形式にて進めますが、皆さんに意見を発言していただくこともあります。また、一人一話、ご自分の知っている昔話や怪談を授業中に口頭で紹介していただきます。これは毎年、皆さんけっこう楽しんでやって下さいます。またこの機会に、お正月や七夕などの年中行事の民俗についても学びま		
テキスト	授業時に指示いたします。	参考文献	授業時に指示いたします。
評価方法	教務課提出レポート:50% 平常点（口頭発表、提出物など）:30% 出席状況:20%		

創作演習・短歌		通年 4 単位	
短歌の世界へ		高野 公彦 (たかの きみひこ)	
ねらい	これは短歌の好きな人、短歌を作ってみたい人のための授業です。毎週、短歌を作ってもらいます。じっさいに短歌を作ることによって、短歌を作る楽しさ、及び短歌の奥の深さを知ってもらいたいと思います。		
授業計画	【前期】 第1回 短歌の話 第2回 作品2首提出、短歌の話 第3回 作品2首提出、作品批評 第4回 " " 第5回 " " 第6回 " " 第7回 " " 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " " 第11回 " " 第12回 " " 第13回 " " 第14回 " " 第15回 作品批評、自選歌8首提出	【後期】 第1回 作品2首提出、短歌の話 第2回 作品2首提出、作品批評 第3回 " " 第4回 " " 第5回 " " 第6回 " " 第7回 " " 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " " 第11回 " " 第12回 " " 第13回 " " 第14回 " " 第15回 作品批評、自選15首提出	
進め方	毎週、短歌を提出してもらいます。それをプリントして、みんなで批評し合います。作品の中から良いと思ったものを選び、感想を述べて下さい。必要に応じて教師も意見を言います。また、ときどき現代のすぐれた短歌を読んで鑑賞します。		
テキスト	なし	参考文献	高野公彦編『現代の短歌』（講談社学術文庫）
評価方法	作品（自選歌）の評価：60% 出席：30% 授業への参加度：10%		

修了論文演習		通年 4 単位	
修了論文題目と修了論文の提出期限			
【担当教員】 岡崎 和夫（おかざき かずお）、小林 正明（こばやし まさあき）、佐伯 眞一（さえき しんいち）、鹿倉 秀典（しかくら ひでのり）、鈴木 直子（すずき なおこ）、辻 吉祥（つじ よしひろ）、藤本 勝義（ふじもと かつよし）			
修了論文題目 提出期限 2010年6月1日(火)午後4時30分（厳守）			
修了論文 提出期限 2010年12月7日(火)午後4時30分（厳守）			
修了論文枚数 400字詰め原稿用紙に換算して40枚以上			
提出先 教務課			

修了論文演習		通年 4 単位	
ふたたび、研究論文を書く、別名：研究論文を楽しむ		岡崎 和夫（おかざき かずお）	
ねらい	1. 本科の卒業論文内容をすこし発展させる。 2. とくに論の着想、論文の構想を楽しむ。 3. データや事実を大切にあつかう科学的姿勢を身につける。		
授業計画	【前期】 第1回 導入篇 第2回 データと方法を語る（A段階） 第3回 データと方法を語る（A段階） 第4回 データと方法を語る（A段階） 第5回 データと方法を語る（B段階） 第6回 データと方法を語る（B段階） 第7回 データと方法を語る（B段階） 第8回 データと方法を語る（C段階） 第9回 データと方法を語る（C段階） 第10回 データと方法を語る（C段階） 第11回 事実の発見と考え方の発見（A段階） 第12回 事実の発見と考え方の発見（A段階） 第13回 事実の発見と考え方の発見（B段階） 第14回 事実の発見と考え方の発見（C段階） 第15回 前期成果を語る	【後期】 第1回 導入篇 第2回 草稿の提出に向けての最終段階 第3回 草稿の提出に向けての最終段階 第4回 草稿の提出に向けての最終段階 第5回 書いて、拓げて行く体験について(1) 第6回 書いて、拓げて行く体験について(2) 第7回 書いて、拓げて行く体験について(3) 第8回 書いて、拓げて行く体験について(4) 第9回 書いて、拓げて行く体験について(5) 第10回 書いて、拓げて行く体験について(6) 第11回 書いて、拓げて行く体験について(7) 第12回 書いて、拓げて行く体験について(8) 第13回 発展させる方法を語る(A) 第14回 発展させる方法を語る(B) 第15回 発展させる方法を語る(C)	
進め方	毎回、気づいたこと、考えたこと、調べたこと、作業したことを具体的に話しに来て下さい。それを基に、私は、ほめたり、軌道を修正したり、考え込んだり、言うべき言葉を失ったりしながら、論理的に書くことや科学的に観察することや事実を大切にすべきことや、解釈の仕方が多岐であることや史料・資料そのものの扱い方などについて話します。		
テキスト	用いない。	参考文献	とりくむ内容に合わせて指示。
評価方法	進行報告内容:50% 論文の達成度:50%		

修了論文演習		通年 4 単位	
修了論文—専攻科総集篇として		小林 正明（こばやし まさあき）	
ねらい	「修了論文」は専攻科の総集篇といっても過言ではないでしょう。専攻科の貴重な1年間の記念碑として修了論文を位置づけていただきたいです。年間の面接日程を利用しながら、対象とする作品を着実に読み進め、自分のテーマを模索・探求していく進捗の過程がとくに大切です。		
授業計画	【前期】 第1回 全体授業 第2回 面接授業 第3回 面接授業 第4回 面接授業 第5回 面接授業 第6回 面接授業 第7回 面接授業 第8回 面接授業 第9回 面接授業 第10回 面接授業 第11回 面接授業 第12回 面接授業 第13回 補遺Ⅰ 第14回 補遺Ⅱ 第15回 補遺Ⅲ	【後期】 第1回 面接授業 第2回 面接授業 第3回 面接授業 第4回 面接授業 第5回 面接授業 第6回 面接授業 第7回 面接授業 第8回 面接授業 第9回 面接授業 第10回 面接授業 第11回 面接授業 第12回 補遺Ⅳ 第13回 補遺Ⅴ 第14回 補遺Ⅵ 第15回 補遺Ⅶ	
進め方	面接を主とした修了論文の授業となります。面接スケジュールを利用して、一步一步、来るべき修了論文に近付いていきましょう。面談のさいには、学生のみなさんから、問題意識、着想、進歩具合などを提供していただき、担当教員である私の方からは、探求の前進に向けて、一緒に考えながら質問や助言をさせていただきます。		
テキスト	各自が必要に応じて、手配してください。	参考文献	面接授業のさい必要に応じて相談します。
評価方法	面接回数:30% 進捗と取り組み:40% 修了論文の出来具合:30%		

修了論文演習		通年 4 単位
中世文学論文指導		佐伯 眞一（さえき しんいち）
ねらい	修了論文演習とは、卒業論文の後に、さらに積み上げる研究です。卒業論文の上に何をプラスするのか、各自が自分の興味・関心に従って、自分の方向を考えてください。その基本的な方向に向かってどう進むのかについて、教員の指導があるわけです。この授業では、中世文学について自分なりの問題意識に基づいた論文を作成できるように、指導しま	
授業計画	【前期】 第1回 論文作成の方向性について話し合う。 第2回 論文作成指導 第3回 同上 第4回 同上 第5回 同上 第6回 同上 第7回 同上 第8回 同上 第9回 同上 第10回 同上 第11回 同上 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 同上	【後期】 第1回 論文作成指導（以下同） 第2回 同上 第3回 同上 第4回 同上 第5回 同上 第6回 同上 第7回 同上 第8回 同上 第9回 同上 第10回 同上 第11回 同上 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 同上
進め方	まず、自分が何に興味を持っているか、また、現在どのようなテーマに関心があるかを具体的に述べてもらいます。それに応じて、どのような研究の展開があり得るか、具体的な可能性を示し、試してもらいます。以下は、その繰り返しです。論文作成とは、調査と思索という二本の足によって進むことですが、教師は地図や灯りとなって、それを手伝い	
テキスト	各自のテーマに応じて指導する。	参考文献 各自のテーマに応じて指導する。
評価方法	論文内容（論理など）：90% 論文内容（文章など）：10%	

修了論文演習		通年 4 単位
江戸時代文芸の研究		鹿倉 秀典（しかくら ひでのり）
ねらい	江戸時代の文芸作品（小説・演劇・韻文など）を研究対象にして「修了論文」を作成します。本科の卒業論文よりも、さらに高度な、奥深い内容を目指しましょう。	
授業計画	【前期】 第1回 課題（テーマ）作成・研究ノート作成 第2回 10枚程度の概略文（個別指導）Ⅰ 第3回 10枚程度の概略文（個別指導）Ⅱ 第4回 10枚程度の概略文（個別指導）Ⅲ 第5回 添削指導Ⅰ 第6回 調査研究期間Ⅰ 第7回 調査研究期間Ⅱ 第8回 調査研究期間Ⅲ 第9回 調査研究期間Ⅳ 第10回 個別指導Ⅰ 第11回 個別指導Ⅱ 第12回 下書き作成（添削指導）Ⅰ 第13回 下書き作成（添削指導）Ⅱ 第14回 下書き作成（添削指導）Ⅲ 第15回 夏休み前の確認	【後期】 第1回 下書き提出 第2回 添削指導Ⅱ 第3回 添削指導Ⅲ 第4回 補完調査期間Ⅰ 第5回 補完調査期間Ⅱ 第6回 補完調査期間Ⅲ 第7回 清書のための報告 第8回 個別指導Ⅰ 第9回 個別指導Ⅱ 第10回 清書期間Ⅱ 第11回 清書期間 第12回 個別指導Ⅲ 第13回 清書期間 第14回 修了論文提出 第15回 最終報告
進め方	自ら学ぶ姿勢を強く持って下さい。アドバイスは、適宜。時に応じて行います。原典資料の所在、その資料の読解方法、先行必読研究などに関する質問は、いつでも可能。しかし「修了論文」の作成に必要なのは、あなた自身の努力と感性、それに好奇心です。新しい「発見」を期待します。	
テキスト	各個人々の「テーマ」に応じて、それぞれに指示します。	参考文献 少々厚めの「研究ノート」、あるいは「研究用FD」を作成すること。それが、あなた自身の「参考文献」となります。
評価方法	過程報告（取り組み意欲）：40% 論文内容：60%	

修了論文演習		通年 4 単位	
近現代文学研究		鈴木 直子 (すずき なおこ)	
ねらい	近現代の文学を対象とし、各自の問題関心に沿って調査・研究をすすめ、修了論文の作成をめざします。諸作業を通じて、作品を取り巻く状況に理解を深め、文学作品を丁寧に読み解きます。また長い文章を論理的に構築し、わかりやすく適切に表現する技術を磨きます。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクダクシヨン 第2回 初回個別面接 第3回 初回個別面接 第4回 初回個別面接 第5回 全体会 第6回 調査研究指導 第7回 調査研究指導 第8回 発表とディスカッション 第9回 発表とディスカッション 第10回 発表とディスカッション 第11回 個別指導 第12回 個別指導 第13回 個別指導 第14回 個別指導 第15回 全体会 (前期のまとめ、夏期の課題確認)	【後期】 第1回 後期INTROダクシヨン 第2回 夏期小論文にもとづく面接 第3回 夏期小論文にもとづく面接 第4回 夏期小論文にもとづく面接 第5回 全体会 (今後の課題の確認) 第6回 個別指導 第7回 個別指導 第8回 個別指導 第9回 個別指導 第10回 個別指導 第11回 個別指導 第12回 個別指導 第13回 個別指導 第14回 口頭発表 第15回 口頭発表	
進め方	各自研究テーマ・問題設定をします。それに基づいて文献調査・分析をし、自分なりの独自の結論を導き出す作業を各自行い、口頭発表と討論をします。		
テキスト	その都度指示します。	参考文献	その都度指示します。
評価方法	論文執筆の過程:50% 修了論文:50%		

修了論文演習		通年 4 単位	
近代文学研究		辻 吉祥 (つじ よしひろ)	
ねらい	明治期以降の文学テキスト、批評、メディアを対象として研究を深めます。過去の著名な作家はほとんど、書くという作業自体の苦しみを呪いの言葉のように日記に書き付けています。にもかかわらず書くのは、そこに「こだわり」があるからなのでしょう。テキストと対峙しながら「みずから自身のなかのこだわり」をいっそう深く掘りすすめてください		
授業計画	【前期】 第1回 論文作成の方向性、問題設定について 第2回 問題意識を固めるⅠ 第3回 問題意識を固めるⅡ 第4回 テキストの確定 第5回 調査研究・論文作成1 第6回 調査研究・論文作成2 第7回 調査研究・論文作成3 第8回 調査研究・論文作成4 第9回 調査研究・論文作成5 第10回 調査研究・論文作成6 第11回 調査研究・論文作成7 第12回 調査研究・論文作成8 第13回 調査研究・論文作成9 第14回 調査研究・論文作成10 第15回 夏季の課題を確認	【後期】 第1回 草稿を提出 第2回 課題の修正、追補 第3回 調査研究・論文作成1 第4回 調査研究・論文作成2 第5回 調査研究・論文作成3 第6回 調査研究・論文作成4 第7回 調査研究・論文作成5 第8回 調査研究・論文作成6 第9回 調査研究・論文作成7 第10回 調査研究・論文作成8 第11回 調査研究・論文作成9 第12回 調査研究・論文作成10 第13回 調査研究・論文作成11 第14回 調査研究・論文作成12 第15回 論文講評	
進め方	みずからの問題意識がなにより大切です。そこから対象となるテキストに問いかけ、解決と同時に新たな問いを得るプロセスのくり返しから、ノートをふくらませていきます。(各国)文献の所在、資料調査の仕方については、どの時点でも案内します。読み続け、書き続け、夏までに10枚、夏季休暇中に25枚までは到達させたいと思います。		
テキスト	個別に指示します	参考文献	個別に指示します
評価方法	論文内容:70% その他の作成過程における達成:30%		

修了論文演習		通年 4 単位	
平安朝文学の研究		藤本 勝義 (ふじもと かつよし)	
ねらい	本科の卒業論文等について、もう少し深く研究したい、あるいは別のテーマ・観点から学びたいことなど、もう一段レベル・アップを目指す修了論文を作成しよう。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 1年間の授業の方法の提示と修了論文のテーマについて 第2回 受講者の簡単な発表と指導① 第3回 簡単な発表と指導② 第4回 発表と指導① 第5回 発表と指導② 第6回 修了論文の題目決定について 第7回 発表と参考文献等についての指導① 第8回 発表と参考文献等についての指導② 第9回 個人面談① 第10回 個人面談② 第11回 個人面談③ 第12回 夏休みの課題について 第13回 個人面談④ 第14回 個人面談⑤ 第15回 個人面談⑥	<p>【後期】</p> 第1回 修了論文の中間報告の提出と今後の予定について 第2回 個人面談—中間報告についての指導① 第3回 個人面談—中間報告についての指導② 第4回 中間報告の訂正に関する発表と指導① 第5回 中間報告の訂正に関する発表と指導② 第6回 中間報告以後の発表と指導① 第7回 中間報告以後の発表と指導② 第8回 中間報告以後の発表と指導③ 第9回 中間報告以後の発表と指導④ 第10回 中間報告以後の発表と指導⑤ 第11回 修了論文の書き方等の指導 第12回 個人面談 第13回 個人面談 第14回 個人面談 第15回 修了論文の返却と講評	
進め方	ほとんど個人面談で行う。本科と全く違う作品等を取り上げる場合のやり方は、本科同様、しばらくは、作品等を読み、ノートする作業を行う。しかし、本科と同じ作品の場合は、テーマに則した取り組み方をしてもらい。夏休み中に中間報告20枚を書いてもらい、そのリズムをもとに個人面談を行うことは本科同様である。		
テキスト	個々人に、作品に応じてそれぞれ指示する。ノートを一冊用意すること。本文引用、調べたこと、気付いたこと等を書き込んでいくこと。	参考文献	個々人に、研究内容に応じて指示する。
評価方法	論文内容:70% 平常点:30%		

日本美術史		通年 4 単位	
古代・中世の美術と社会		成原 有貴 (なりはら ゆき)	
ねらい	飛鳥・白鳳時代から室町時代までの美術について概説します。各時代の代表的な作品をとりあげ、表現の特質や作品の意味などについて説明すると共に、美術作品がどのような社会・文化状況のなかからうみ出されたかを考察します。講義を通じ、美術史の基礎知識を修得し、美術と現実社会のかかわりについて理解を深めましょう。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 飛鳥・白鳳時代 「玉虫厨子」 第2回 飛鳥・白鳳時代 「法隆寺金堂壁画」1 第3回 飛鳥・白鳳時代 「法隆寺金堂壁画」2 第4回 飛鳥・白鳳時代 「高松塚古墳壁画」1 第5回 飛鳥・白鳳時代 「高松塚古墳壁画」2 第6回 奈良時代 正倉院宝物1 第7回 奈良時代 正倉院宝物2 第8回 奈良時代 正倉院宝物3 第9回 平安時代 唐絵とやまと絵 第10回 平安時代 仏画と仏教説話画 第11回 平安時代 絵巻「鳥獣人物戯画」 第12回 平安時代 絵巻「源氏物語絵巻」1 第13回 平安時代 絵巻「源氏物語絵巻」2 第14回 平安時代 装飾経「平家納経」と「扇面法華経」 第15回 まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 鎌倉時代 絵巻「平治物語絵巻」 第2回 鎌倉時代 絵巻「男衾三郎絵巻」 第3回 鎌倉時代 垂迹画1 第4回 鎌倉時代 垂迹画2 第5回 鎌倉時代 肖像画1 第6回 鎌倉時代 肖像画2 第7回 鎌倉時代 仏教説話画1 第8回 鎌倉時代 仏教説話画2 第9回 室町時代 水墨画1 第10回 室町時代 水墨画2 第11回 室町時代 会所の美術1 第12回 室町時代 会所の美術2 第13回 室町時代 御伽草子絵と物語絵1 第14回 室町時代 御伽草子絵と物語絵2 第15回 まとめ	
進め方	原則的には講義形式で行います。パワーポイントで作品を映写します。授業時に小レポート（作品についての記述など）の作成・提出を求めます。		
テキスト	特に指定しません。授業の要点を記したプリントを毎回配布します。	参考文献	『日本美術全集』講談社、日高薫『日本美術のことば案内』小学館、2003年。全集の該当巻などは授業時に指示します。
評価方法	試験:50% 平常点:50%		

日本文化史		通年 4 単位	
日本文化と現代の諸問題		小林 正明 (こばやし まさあき)	
ねらい	私たちは、これが日本の文化・これが現代の日本などどの程度まで説明できるでしょうか。使用テキスト（和英対照の『日本図解事典』）にそって個別現象を点検するとともに、お互いの見聞・体験を交換することによって、そうした日本なるものの輪郭が浮かび上がってくることを期待します。		
授業計画	【前期】 第1回 情報交換。 第2回 年中行事Ⅰ（ひな祭り、花見、七夕など）。 第3回 年中行事Ⅱ（月見、年末年始など）。 第4回 通過儀礼（結婚と葬式、出産、七五三など）。 第5回 祭り。 第6回 日本料理。 第7回 食事作法と礼法。 第8回 能、狂言、歌舞伎。 第9回 活花、茶道、習い事。 第10回 迷信、十二支、占い、妖怪。 第11回 百人一首、カルタ。 第12回 武道。 第13回 神社仏閣、霊所。 第14回 庭園、建物。 第15回 補遺Ⅱ。	【後期】 第1回 情報交換。 第2回 人物日本史（学生英文担当） 第3回 人物日本史（学生英文担当） 第4回 人物日本史（学生英文担当） 第5回 警察、司法、犯罪。 第6回 観光、駅弁、温泉。 第7回 人口、結婚。 第8回 交通、輸送。 第9回 基地、軍事、国防。 第10回 医療、保険、介護。 第11回 雇用、所得、年金。 第12回 メディア。 第13回 都市、地方。 第14回 旧植民地、外国人。 第15回 皇室、国歌、皇室。	
進め方	前期は日本文化の諸分野、後期はおもに現代の諸問題を扱う。毎回、下記テキスト（図解付き、英文・和文併用記述）を使用する。授業時間の内訳は①テキストの英文箇所講読（基本的には教員担当）②学生の発言③学生のテーマ発表（後期）を予定しているが、履修者の人数や希望により変更もありえる。		
テキスト	『トレンド英語日本図解事典』（小学館）＊英文箇所の使用頻度が高いので必ず購入してください	参考文献	なし。
評価方法	出席:20% 授業の取り組み姿勢:20% 担当発表:20% 発言実績:30% 発言申告書の提出:10%		

西洋文化史		通年 4 単位	
古代ギリシア演劇の世界		小林 薫 (こばやし かおる)	
ねらい	古代ギリシア演劇は、後のヨーロッパ演劇や文学に多大な影響を与えた。本講義では「三大悲劇詩人」アイスキュロス、ソポクレス、エウリピデスの作品を精読する。またこれらの作品が上演された、紀元前後世紀の民主政アテネの社会状況についても学ぶ。		
授業計画	【前期】 第1回 序論：ギリシア演劇の世界 第2回 西洋近代における古典古代の受容 第3回 民主政アテネの社会と文化 第4回 ギリシア悲劇の上演制度 第5回 アイスキュロス：『アガ멤ノン』1 第6回 アイスキュロス：『アガ멤ノン』2 第7回 アイスキュロス：『アガ멤ノン』3 第8回 アイスキュロス：『アガ멤ノン』4 第9回 アイスキュロス：『アガ멤ノン』5 第10回 アイスキュロス：『コエーポロイ』1 第11回 アイスキュロス：『コエーポロイ』2 第12回 アイスキュロス：『エウメニデス』1 第13回 アイスキュロス：『エウメニデス』2 第14回 アイスキュロス：『オレスティア』三部作と民主政 第15回 これまでのまとめ	【後期】 第1回 テーバイ伝説と『オイディプス王』 第2回 ソポクレス：『オイディプス王』1 第3回 ソポクレス：『オイディプス王』2 第4回 ソポクレス：『オイディプス王』3 第5回 ソポクレス：『オイディプス王』4 第6回 ソポクレス：『オイディプス王』5 第7回 ソポクレス：『オイディプス王』6 第8回 アルゴ号伝説と『メーディア』 第9回 エウリピデス：『メーディア』1 第10回 エウリピデス：『メーディア』2 第11回 エウリピデス：『メーディア』3 第12回 エウリピデス：『メーディア』4 第13回 エウリピデス：『メーディア』5 第14回 エウリピデス：『メーディア』6 第15回 これまでのまとめ	
進め方	本講義で扱う作品を事前に読んである事を前提に授業を行うので、必ず予習しておく事。スライドやDVDなどを視聴覚教材を用い、理解を助ける。		
テキスト	アイスキュロス『アガ멤ノン』（久保正彰訳）岩波書店 ソポクレス『オイディプス王』（藤沢令夫訳）岩波	参考文献	参考文献リストを配布する。
評価方法	期末試験（前期）:30% 期末レポート（後期）:50% 課題:10% 出席:10%		

東洋文化史		通年 4 単位	
東洋を知ろう		原田 理恵 (はらだ りえ)	
ねらい	今、中国はいろいろな意味で巨大な存在であると同時に、日本にとっては千年以上も前から政治・経済、そして何よりも文化的に深く関わってきた隣国です。その巨大な隣国の多様な文化について知り、考え、理解し、そして自らの社会や文化について再び問い直す機会となること、この授業のねらいです。		
授業計画	【前期】 第1回 陶磁器から時代を見る 1 第2回 陶磁器から時代を見る 2 第3回 陶磁器から時代を見る 3 第4回 陶磁器から時代を見る 4 第5回 古代中国世界の形成 1 第6回 古代中国世界の形成 2 第7回 古代中国世界の形成 3 第8回 古代中国世界の形成 4 第9回 孔子の生涯とその思想 1 第10回 孔子の生涯とその思想 2 第11回 孔子の生涯とその思想 3 第12回 孔子の生涯とその思想 4 第13回 商鞅の新法 第14回 韓非の時代 第15回 前期レポートについて	【後期】 第1回 法家の思想 1 第2回 法家の思想 2 第3回 性善の思想・性悪の思想 第4回 官僚—最も中国的なもの—1 郷拳里選と九品官人法 第5回 官僚—最も中国的なもの—2 科挙沿革① 第6回 官僚—最も中国的なもの—3 科挙沿革② 第7回 官僚—最も中国的なもの—4 科挙の実際① 第8回 官僚—最も中国的なもの—5 科挙の実際② 第9回 元朝秘史の世界 1 第10回 元朝秘史の世界 2 第11回 元朝秘史の世界 3 第12回 チングス・ハーンのモンゴル帝国 第13回 征服王朝 元 第14回 “東洋文化”の視点からもう一度日本を見る 第15回 試験	
進め方	講義が中心となります。「東洋の歴史」の広大な時間と空間の中から、中国世界を中心として人々の生活や思想あるいは社会のあり方など様々な観点で切り取ったいくつかのテーマを紹介します。一つのテーマを三週間程度の講義で修了し、その区切り毎に講義に関する質問・感想・意見等を書いていただき、次の授業で紹介いたします。		
テキスト	使用しません。	参考文献	授業で紹介します。
評価方法	平常点:30% レポート:30% 筆記試験:40%		

キリスト教と文化		通年 4 単位	
C. S. Lewisとキリスト教		伊藤 勝啓 (いとう かつひろ)	
ねらい	C. S. ルイス (1898—1964) の生涯を通して、その信仰と知性の在り方を学び、今日の文化に欠落しているものは何かを一緒に考える。		
授業計画	【前期】 第1回 概要の説明+このコースを取った理由と自己紹介 第2回 ルイスの幼・少年時代 第3回 母の死と家を離れる 第4回 学校生活、兄と友人 第5回 カーク・バトリック夫妻とともに 第6回 第一次世界大戦の中で 第7回 ミセス・ムーアとルイス 第8回 信仰にいたる巡礼 第9回 クリスマスとなってからの文学活動 第10回 第二次世界大戦とルイス 第11回 ナルニア国物語 第12回 最愛の人Joy Davidman Greshamに会うまで 第13回 Joyとの短い結婚生活 第14回 ルイス最後の日々 第15回 ルイスとキリスト教	【後期】 第1回 発表と論評 第2回 同上、2 第3回 同上、3 第4回 同上、4 第5回 同上、5 第6回 同上、6 第7回 同上、7 第8回 同上、8 第9回 同上、9 第10回 同上、10 第11回 同上、11 第12回 同上、12+クリスマス祝会 第13回 同上、13 第14回 同上、14 第15回 発表に対する講評とまとめ	
進め方	講義を中心とするが、その間ルイスの作品を直接朗読してもらい、後期はレジメを作り、クラスで発表・討論し、論評を加える。		
テキスト		参考文献	C. S. ルイス『喜びのおとずれ』 これはルイスの自伝にあたるもので是非読むようにすること。また、コーレンの『ナルニア国をつくった人』を読む
評価方法	出席:50% 発表:50%		